

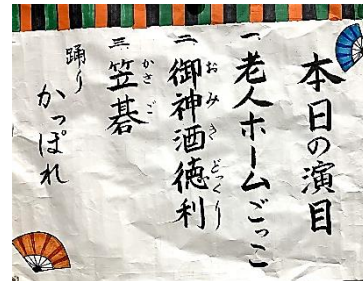
笑いの芸に堪能しました！

流石に今流「新作落語」、味がある「古典落語」

11月30日（水）「第9回みずき野寄席」が中央公民館で開催されました。毎年恒例のイベントで今回は9回目、いつも好評な桂伸衛門師匠の公演でした。参加者数は140名で何と今までで最高の入り、しかも今回は近隣の老人会には声をかけない中での新記録でした。みずき会会長の挨拶に続いて、6丁目の山口様が挨拶。山口様はこのみずき野寄席に最初から関わってこれられていて言わば育ての親で、軽快なトークに続いて物品販売の話にも力が入りました。公演前と休憩時間および公演終了後に手ぬぐいと一筆箋の販売を行いました。山口様のPRもあって一筆箋は完売、手ぬぐいは持ち込みの7割も売れました。とても感謝しています。



いよいよ第9回みずき野寄席が開演！



本日の演目

いよいよ桂伸衛門師匠の登場、高座で生着替えを披露して一旦舞台の袖に引っ込み、改めて高座に上がって公演が始まりました。「老人ホームごっこ」老人と子供とその母親（介護士）の話で現実性は少ないけれど面白い。「御神酒徳利」は偽占い師にさせられてしまった人のハラハラドキドキの話で実に愉快。「笠碁」はその一手置き直しさせてくれ、それはできないから始まった人間模様。最後に踊りかつぼれ。始めの2秒の動きを全員でやってみました。これで体も元気に。



伸衛門師匠の「傘碁」に思わず笑いが



師匠の指導でみなさん「かつぼれ」に挑戦

新作も古典落語も踊りもどれもとても楽しめました。皆さん、「良かった、楽しかった」「演目が3つというのが飽きなくて良かった」「3つとも凄く面白かった」など大好評でした。実は私、去年は不覚にも「うとうと」してしまったのですが今回は食い入って聴いて大いに笑いました。

